

第 46 回 自然観察会（西ウレ峠） 実施報告

自然保護委員長 栗木洋明

平成 30 年 10 月 28 日（日）、第 46 回の自然観察会を高山市清見町のせせらぎ街道沿いにある西ウレ峠周辺で実施。今回の自然観察会は年度当初の計画にはない、臨時の会。計画から実施まで 1 か半月ほどしかない思い付きの様な会。しかし、講師の小野木先生をはじめ、小野木ファンのバックアップのおかげで、盛大かつ楽しく実施することができ、参加者数も小野木先生を含めて 31 名と盛況であった。

当日の西ウレ峠は、これ以上ないという紅葉のピーク。小野木先生いわく、「今年の紅葉はここ 10 年で一番の美しさ」だそうで、西ウレ峠周辺の木々は、それはそれは、見事な紅葉であった。

自然観察会は西ウレ峠から西水源山山頂までの遊歩道を利用。赤や黄色の木々に心躍らせながら山頂を目指した。しかし、この山もまた、夏の台風の被害は避けられず、先頭の数人で倒木をよけたり、道の整備をしたりしながら前進。小野木節が炸裂する自然観察会は 40 分のコースを 2 時間かけて山頂に到着。小野木先生からはカエデのアレコレ、ツゲとイヌツゲの違い、葉が紅葉する時の科学的説明はともかく、緑のまま又は黄葉・紅葉して落葉するのはなぜ？どうせ散ってしまうのにわざわざ色々になって果てるのは何故なのか考える方がおもしろいと思いませんか、という話が興味深かった。また、岡崎から参加の子どもたちが、自然の中で落ち葉やブナの実、ドングリなどを拾い集める姿も可愛かった。

下山後、駐車場周辺は紅葉見物の観光客がますます多くなっている中、昼食の準備。二つの鍋いっぱいの料理とバーベキューを準備し、小野木先生の乾杯の発声で食事開始。肌寒い気温には暖かい鍋が嬉しく、瞬く間に完食。あと片付けした後、寒さを避け、管理棟の中で山の歌を合唱。場所移動をしなかったことも大正解。美しい紅葉の山を巡り、自然の中での楽しい昼食、思い出の歌を口ずさんだ今回の自然観察会もあつという間のひと時で、充実した時間を過ごすことができた。

